

秀峰 科学甲子園へ熱く

あす開幕 5年生チーム 課題研究

数学や理科、情報科
目の知識や技能をチー
ムで競う「第7回科学
の甲子園全国大会」の
16日開幕に向けて、松
本秀峰中等教育学校5
年生（高校2年生）の
男子8人によるチーム
が、事前に与えられた
実技競技の課題対策に
取り組んでいる。ハト
形の翼のある「はばた
き機」と無線による給
電装置を制限時間内に
製作してレースをする
競技で、8人は速く、
滑らかに動ける機体づ
くりの知恵を絞り、試
行錯誤を重ねている。

(第3種郵便物認可)

昨年11月の県大会で
総合優勝し、全国大会
への切符を手にした。



同校は2年連続2回目
の出場になる。さいた
ま市で16、19日に開催
される大会では、47都
道府県の各大会を勝ち
抜いたチームと競う。

道府県の各大会を勝ち抜いたチームと競う。競技は知識を問う筆記と実技があり、実技は事前と当日にそれぞれ示される課題に臨む。

8人は、県大会に出場した古屋大紀君、松沢龍君、上村直幹君、川原航君、太田一輝君、山下真君の6人に、郷原一生君と萩元亮太郎君の2人が加わる。いずれも17歳で、中学入学当初から一緒だったチームワークの良さが特長だ。

大会直前は毎日、放

全国大会に向けて
課題の研究に励む
メンバー

課後の時間を利用して課題の研究に取り組んだ。リーダーの古屋君は「長野県のチームは10位以上がないので、まずは上位を目指し、その先に優勝も見据えたい」と意気込む。全国大会は国立研究開発法人科学技術振興機構の主催で、優勝すると来年5月に米国で開催される「サイエンスオリムピアド」の出場権を得る。

(田子元気)